

原 著

歯科衛生士業務に関する歯科医師および歯科衛生士へのアンケート調査

小川 雅之^{1,2)} 柴田 俊一^{1,2)} 真喜屋 建^{1,2)} 大森 俊和¹⁾
岩根 史明¹⁾ 多田 幸恵²⁾ 岩崎 ひとみ²⁾ 松岡 なつき²⁾
川口 真美賀²⁾ 三宅 秀和¹⁾ 森 大輔¹⁾ 片山 祐¹⁾
藤原 周^{1,2)}

The Role of Dental Hygienists Requested by Dentists and Dental Hygienists

OGAWA MASAYUKI^{1,2)}, SHIBATA SYUNICHI^{1,2)}, MAKIYA KEN^{1,2)}, OOMORI TOSHIKAZU¹⁾, IWANE FUMIAKI¹⁾,
TADA YUKIE²⁾, IWASAKI HITOMI²⁾, MATSUOKA NATSUKI²⁾, KAWAGUCHI MAMIKA²⁾, MIYAKE HIDEKAZU¹⁾,
MORI DAISUKE¹⁾, KATAYAMA TASUKU¹⁾ and FUJIWARA SHUU^{1,2)}

歯科医師が望む歯科衛生士の役割、ならびに歯科衛生士が望む歯科衛生士の役割に関するアンケート調査を行った。対象は大学付属病院勤務の歯科医師、歯科衛生士、開業歯科医師と開業医勤務の歯科衛生士および歯科衛生士専門学校学生（2年制2学年）であった。アンケート調査・検討の結果、以下の結論を得た。

歯科衛生士の業務は、歯科診療補助が一番多かった。将来あるいは理想的に望まれる歯科衛生士の業務は、大学勤務歯科医師は診療補助であったが、その他の職場では全て歯科予防処置が最も多かった。全ての職場で歯科衛生士に継続的な技量の邁進の必要があると考えていた。

キーワード：歯科衛生士、アンケート、歯科診療補助、協働

A questionnaire survey was carried out to investigate about the roles of that dental hygienists were required to play. The subjects surveyed were dentists and dental hygienists in a dental hospital, dental practitioners, and dental hygienists in a dental clinic and students at a dental hygienist school.

The following results were obtained: Most duties of dental hygienist involved dental examinations and treatment assistance. As an ideal for the future, dentists in the dental hospital thought that the main duties of a dental hygienist were dental examinations and treatment assistance. However, the other subjects thought that the main duties of dental hygienist were preventive treatment. All subjects thought that dental hygienists need to continuously increase their skills.

Key words: Dental Hygienist, Questionnaire Assistance of Dental Treatment, Cooperation

緒 言

歯科医師と歯科衛生士との協働によって、高度な歯科診療を安全にかつ円滑に患者に提供することができ

る¹⁻³⁾。しかし、その協働は単に歯科医師と歯科衛生士だけの問題ではなく、医療行政として許可された範疇で行わなければならない、その解釈も歯科医療の進歩や臨床の環境に係わり変化しつつある⁴⁻⁷⁾。また協働

本論文の要旨は第117回日本補綴歯科学会（平成20年6月8日、名古屋）において発表した。

¹⁾朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野
501-0296 岐阜県瑞穂市穂積1851

²⁾PDI 岐阜歯科診療所
500-8309 岐阜市都通5-15

³⁾Department of Prosthodontics, Division of Oral Functional Science

and Rehabilitation

Asahi University School of Dentistry
Hozumi 1851, Mizuho, Gifu 501-0926, Japan

²⁾PDI dental clinic at Gifu
MiyakoDoori5-15, Gifu, Gifu500-8309, Japan
(平成22年1月6日受理)

の範囲にも、歯科医師と歯科衛生士のそれぞれが持つ理想と現実との違いという種々のギャップが存在しており、これらは勤務体系にはじまり、地域、経済性、患者の年齢やデンタルIQ、重点を置く治療内容、歯科衛生士法の解釈、歯科衛生士の手腕、技量等と多種多様な要因が関連している。

そこで歯科医師が望む歯科衛生士の役割と歯科衛生士が望む歯科衛生士の役割について、大学勤務の歯科医師、歯科衛生士、開業歯科医師、開業医勤務の歯科衛生士および歯科衛生士専門学校学生(2年制2学年)に対して問診型アンケートを行い、それぞれの職場において歯科衛生士の役割や、そのギャップについて調査・検討した。

調査方法

2008年2月に歯科衛生士の業務および状況に関するアンケートを歯科医師、歯科衛生士および歯科衛生士専門学校学生に対して行った。質問票は自記無記名方式で、歯科衛生士の役割、業務、一般業務、補助業務および他の項目について行った(表1, 2)。アンケートを行った歯科医師は、朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野(診療科:総合診療科および補綴科41名, PDI 岐阜歯科診療所:14名)および一般開業医(岐阜市歯科医師会会員および朝日大学歯科補綴学講座関係者:326名)に依頼した。また、歯科衛生士は、朝日大学付属病院勤務(25名)および一般開業医(岐阜市歯科医師会会員および朝日大学歯科補綴学

表1 問診型アンケート票(1)

歯科衛生士の業務に関するについてのアンケート				
*「歯科医師が望む歯科衛生士の役割」についてアンケートを行っています。忌避のないご意見や、現状に付いての情報を提供していただけるようにお願いします。 アンケートのチェックボックスに印を付けてください。 (※手紙ですが、必ず全ての設問に御回答ください) (個人情報等に保つる場合には、取り扱いは十分に留意いたしますのでご安心ください)				
Q1	歯科衛生士は歯科医療を円滑に行う上で必要ですか?	極めて必要口	必要口	どちらでもない口
		必要ない口	全く不要口	
		極めて必要および不必要の回答簡単な理由をお書きください。		
Q2	歯科衛生士の業務のうち主たるものはどのように考えています(1つ選んでください)? (歯科診療補助:患者への対面・直接行為、介助:単純な補助行為(歯科助手が行える))	歯科予防処置口	歯科診療補助口	歯科診療介助口
		歯科保健指導口		
Q3	Q2に関して、診療室では実際にはどの業務を主たるものとなっていますか(1つ選んでください)?	歯科予防処置口	歯科診療補助口	歯科診療介助口
		歯科保健指導口		
Q4	Q2に関して、将来あるいは理想的にはどの業務が主たるものであるべきだと考えますか(1つ選んでください)?	歯科予防処置口	歯科診療補助口	歯科診療介助口
		歯科保健指導口		
Q5	歯科衛生士の一般業務として大切なものを3つ選んでください。	受付対応口	消毒業務口	器具・材料の手入れ口
		アポイント管理口	レントゲン・写真等の整理・管理口	清掃・後かたづけ口
		リコールの約束など口	その他()	患者誘導口
Q6	歯科衛生士の歯科診療補助・介助業務で、大切なものを3つ選んでください。	予備的診査(歯周基本検査、口腔内写真、歯式記載等)口	TBI・歯垢染め出し(衛生士実地指導)等口	診療介助(バキューム、セメントや印象の練など)口
		診療介助・補助(手術の直接介助等)口	スケーリング・SRP口	PMT C口
		フッ化物塗布・高濃充填口	充填物の研磨(口腔内)口	治療に対する患者説明口
		治療後の指導(ブリッジや義歯の取り扱い・清掃法など)口	その他()	
Q7	歯科衛生士は歯科治療方針等についての補助的説明をするべきですか? (例:歯周病治療の処置内容、期間、必要性など)	反対口	やや反対口	どちらでもない口
		やや賛成口	賛成口	

表2 問診型アンケート票(2)

Q8	衛生士が行う、補助的説明では以下どの内容を含むあるいは可能と考えますか(全てお選びください)?	一般的処置全て口	歯周病治療口	根管治療口	補綴治療口	修復処置口
		矯正治療口	小児歯科の処置口	予防処置(フッ素塗布や予防充填)口		
		外科的処置口	ホワイトニング口	インプラント治療口		
		PMT C口	その他()			
Q9	歯科衛生士が、補綴物の違い(材料、利点、欠点、費用等)等に関する補助的説明を行うことはどうでしょうか?	反対口	やや反対口	どちらでもない口	やや賛成口	賛成口
Q10	歯科衛生士は装着された補綴物に対する患者指導(清掃指導や取り扱い)を積極的にするべきですか?	反対口	やや反対口	どちらでもない口	やや賛成口	賛成口
		反対および賛成の回答簡単な理由をお書きください。				
Q11	治療終了した患者さんの補綴物等のメンテナンスやリコールは歯科衛生士の業務ですか?	反対口	やや反対口	どちらでもない口	やや賛成口	賛成口
		反対および賛成の回答簡単な理由をお書きください。				
Q12	歯科衛生士は現在よりもっと専門的技量や知識が必要と考えますか?	反対口	やや反対口	どちらでもない口	やや賛成口	賛成口
Q13	種々の認定衛生士制度(例:歯周病)が始まりましたがどう思いますか?	反対口	やや反対口	どちらでもない口	やや賛成口	賛成口

意見等を必ず一行でもご記入してください。

ご協力ありがとうございました。

講座関係者:326名)の勤務衛生士にアンケート用紙を同封して依頼した。また、歯科衛生士学校学生は朝日大学歯科衛生士学校2年生(53名)に依頼した。なお全ての調査対象には、本研究の趣旨および目的を説明する文書を添付し、協力を得られるように依頼を行った。

統計処理は2標本におけるコルモゴロフ・スミルノフ検定を行い、統計解析は統計処理ソフト「EXCEL統計 Ver 5.0(エスミ社製)」を用いた⁸⁾。

結果

アンケート調査の依頼に対して、朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野(以下大学補綴科DR)(41名), PDI 岐阜歯科診療所(以下PDI DR)(14名), 朝日大学付属病院勤務歯科衛生士(以下病院DH)(25名)および朝日大学歯科衛生士専門学校(以下衛生士学生)(53名)は全て有効回答を得た。一般開業医(以下開業医DR)では、326件のアンケートの依頼に対して歯科医師127名(38.6%)であり、一般開業医勤務の歯科衛生士(以下開業医DH)106名(32.5%)の有効回答を得た。

アンケート調査のそれぞれの設問に対する回答の占めるパーセントを表に示す(表3, 4)。また併せて、それぞれ2標本の度数分布の差についてコルモゴロフ・スミルノフの検定の結果を表5に示した。なお、Q3からQ8は度数分布のカテゴリー(選択肢)に順序がない設問であり本検定には適合しないため、またPDI 岐阜歯科診療所の歯科医師数が14名と少ないため除外した。

表3 アンケート結果 (%) Q1～Q6

Q1	歯科衛生士は歯科医療を円滑に行う上で必要ですか？				
	極めて必要	必要	ふつう	必要ない	全く必要ない
開業医DR	69.2	28.2	2.6	0.0	0.0
補綴科DR	53.7	41.5	4.9	0.0	0.0
PDI DR	35.7	64.3	0.0	0.0	0.0
開業医DH	30.2	60.4	7.5	1.9	0.0
病院DH	64.0	36.0	0.0	0.0	0.0
衛生士学生	32.1	60.4	7.5	0.0	0.0

Q2	歯科衛生士の業務のうち主たるものはどのように考えています(1つ選んでください)？			
	歯科予防処置	歯科診療補助	歯科保健指導	歯科診療介助
開業医DR	44.1	31.5	22.8	1.6
補綴科DR	7.3	75.6	17.1	0.0
PDI DR	55.2	20.7	24.1	0.0
開業医DH	55.2	21.9	21.9	1.0
病院DH	52.0	24.0	24.0	0.0
衛生士学生	75.5	20.8	3.8	0.0

Q3	Q2に関して、診療室では実際にはどの業務を主たるものとなっていますか(1つ選んでください)？			
	歯科予防処置	歯科診療補助	歯科保健指導	歯科診療介助
開業医DR	37.9	47.4	11.2	3.4
補綴科DR	0.0	53.7	2.4	43.9
PDI DR	46.7	33.3	13.3	6.7
開業医DH	36.8	44.3	12.3	6.6
病院DH	3.8	53.8	15.4	26.9

Q4	Q2に関して、将来あるいは理想的にはどの業務が主たるものであるべきだと考えますか			
	歯科予防処置	歯科診療補助	歯科保健指導	歯科診療介助
開業医DR	53.8	22.2	23.1	0.9
補綴科DR	41.5	51.2	7.3	0.0
PDI DR	50.0	50.0	0.0	0.0
開業医DH	69.5	9.5	20.0	1.0
病院DH	52.0	12.0	36.0	0.0
衛生士学生	75.5	9.4	15.1	0.0

Q5	歯科衛生士の一般業務として大切なものを3つ選んでください									
	受付対応	消毒業務	器具・材料の手入れ	清掃・後かたづけ	アポイント管理	レントゲン等管理	患者誘導	リコール	その他	
開業医DR	7.0	29.5	28.9	12.1	3.5	8.3	5.7	5.1	0.0	
補綴科DR	4.4	24.8	28.3	15.9	8.0	5.3	9.7	3.5	0.0	
PDI DR	7.1	23.8	21.4	23.8	7.1	2.4	7.1	7.1	0.0	
開業医DH	9.6	26.5	26.8	10.9	7.0	6.6	6.0	6.6	0.0	
病院DH	12.7	24.1	27.8	8.9	8.9	6.3	5.1	6.3	0.0	
衛生士学生	10.1	17.6	23.3	13.2	9.4	3.1	10.1	13.2	0.0	

Q6	歯科衛生士の歯科診療補助・介助業務で、大切なものを3つ選んでください。										
	予備的診査	TBI、菌垢染め出し	診療介助(間接)	診療介助(直接)	スケーリングSRP	PMTc	ノック物楔布・窩溝充填	充填物研磨(口腔内)	コンサルテーション	治療後の指導	その他
開業医DR	17.7	24.6	5.8	7.5	22.6	9.9	4.1	0.0	3.2	4.6	0.0
補綴科DR	18.3	22.2	19.8	5.6	13.5	8.7	5.6	0.0	2.4	4.0	0.0
PDI DR	15.4	25.6	20.5	7.7	20.5	7.7	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0
開業医DH	13.4	18.8	6.7	7.3	27.4	10.5	2.9	0.0	5.7	7.3	0.0
病院DH	2.6	28.2	9.0	5.1	21.8	15.4	5.1	0.0	2.6	10.3	0.0
衛生士学生	6.9	20.8	7.5	6.3	23.9	18.2	9.4	0.6	2.5	3.8	0.0

「Q1 歯科衛生士は歯科医療を円滑に行う上で必要ですか？」の質問に対して、「極めて必要」と答えた開業医DRは69.2%であったが、開業医DHは30.2%と低く有意な差を認めた(表5)。一方、病院DHは64.0%と高率であったが、大学補綴科DR間では有意な差を認めなかった。

Q2からQ4は歯科衛生士の業務に関する設問であり、「Q2 歯科衛生士業務のうち、主たるものはどのように考えていますか？」という質問では、大学補綴科DRは「歯科診療補助」75.6%、衛生士学生は「歯科予防処置」75.5%と高率を示した。しかし「Q3 診療室では実際にはどの業務を行っていますか？」という質問では、PDI DRを除く全ての対象で「歯科診

療補助」が最も主たる業務としての比率が高かった。

「Q4 将来あるいは理想的にはどの業務が主たるものであるべきだと考えますか？」という質問では、大学補綴科DRおよびPDI DRで「歯科診療補助」が51.2%、50.0%と他の対象に比べて著しく高率であった。また、衛生士学生では75.5%が「歯科予防処置」を理想的業務と考えていた。

「Q5 歯科衛生士の一般業務として大切なものを3つ選んでください」では、いずれの回答者も「消毒業務」および「器具・器材の手入れ」を上位にあげていた。

「Q7 歯科衛生士は歯科治療方針等についての補助的患者説明をするべきですか？」という質問に対し

表4 アンケート結果 (%) Q7～Q13

Q7 歯科衛生士は歯科治療方針等についての補助的コンサルテーションをするべきですか？		反対	やや反対	ふつう	やや賛成	賛成						
開業医DR	0.8	5.1	20.3	30.5	43.2							
補綴科DR	0.0	7.3	39.0	14.6	39.0							
PDI DR	0.0	0.0	44.8	31.0	24.1							
開業医DH	0.0	0.0	35.6	29.8	34.6							
病院DH	4.0	0.0	40.0	44.0	12.0							
衛生士学生	0.0	0.0	58.5	26.4	15.1							

Q8 衛生士が行う、補助的コンサルテーションでは以下どの内容を含むあるいは可能と考えますか		一般的処置	歯周病治療	根管治療	補綴治療	修復処置	矯正治療	小児歯科の処置	予防処置	外科的処置	ホワイトニング	インプラント治療	PMTC
開業医DR	11.6	16.9	3.1	4.6	4.8	3.5	9.0	15.2	3.1	7.9	3.3	16.9	
補綴科DR	10.8	14.9	4.1	5.4	4.7	3.4	4.7	17.6	1.4	10.1	2.7	20.3	
PDI DR	9.4	18.9	1.9	1.9	3.8	1.9	3.8	22.6	0.0	15.1	1.9	18.9	
開業医DH	10.2	16.7	3.4	5.4	4.8	5.0	5.2	14.9	4.3	10.4	4.3	15.4	
病院DH	9.2	12.6	0.0	1.1	0.0	5.7	5.7	20.7	3.4	14.9	8.0	18.4	
衛生士学生	12.8	17.6	2.0	2.0	0.7	7.4	6.8	18.9	2.7	8.1	6.1	14.9	

Q9 歯科衛生士が、補綴物の違い（材料、利点、欠点、費用等）等に関する補助的コンサルテーションを行うことはどうでしょうか？		反対	やや反対	ふつう	やや賛成	賛成
開業医DR	5.1	11.9	21.2	21.2	40.7	
補綴科DR	0.0	9.3	32.6	30.2	27.9	
PDI DR	7.1	0.0	28.6	14.3	50.0	
開業医DH	1.9	3.7	34.6	27.1	32.7	
病院DH	0.0	4.0	60.0	24.0	12.0	
衛生士学生	0.0	5.7	60.4	22.6	11.3	

Q10 歯科衛生士は装着された補綴物に対する患者指導（清掃指導や取り扱い）を積極的にするべきですか？		反対	やや反対	ふつう	やや賛成	賛成
開業医DR	0.9	0.9	9.6	21.7	67.0	
補綴科DR	0.0	2.4	19.5	31.7	46.3	
PDI DR	0.0	0.0	42.9	35.7	21.4	
開業医DH	0.0	0.0	18.9	26.4	54.7	
病院DH	0.0	0.0	28.0	32.0	40.0	
衛生士学生	0.0	0.0	45.3	39.6	15.1	

Q11 治療終了した患者さんの補綴物等のメンテナンスやリコールは歯科衛生士の業務ですか？		反対	やや反対	ふつう	やや賛成	賛成
開業医DR	6.2	8.0	27.4	22.1	36.3	
補綴科DR	12.2	7.3	34.1	29.3	17.1	
PDI DR	0.0	7.1	64.3	28.6	0.0	
開業医DH	0.0	2.8	42.5	29.2	25.5	
病院DH	0.0	5.0	35.0	35.0	25.0	
衛生士学生	0.0	1.9	49.1	30.2	18.9	

Q12 歯科衛生士は現在よりもっと専門的スキルや知識が必要と考えますか？		反対	やや反対	ふつう	やや賛成	賛成
開業医DR	0.9	0.9	11.2	31.9	55.2	
補綴科DR	0.0	2.4	26.8	29.3	41.5	
PDI DR	0.0	0.0	21.4	42.9	35.7	
開業医DH	0.0	1.0	19.0	35.2	44.8	
病院DH	0.0	0.0	0.0	44.0	56.0	
衛生士学生	0.0	0.0	37.7	35.8	26.4	

Q13 種々の認定衛生士制度（例 歯周病）が始まりましたがどう思いますか？		反対	やや反対	ふつう	やや賛成	賛成
開業医DR	5.2	9.6	25.2	27.0	33.0	
補綴科DR	0.0	7.5	27.5	22.5	42.5	
PDI DR	0.0	0.0	21.4	50.0	28.6	
開業医DH	1.0	1.0	32.7	28.8	36.5	
病院DH	0.0	4.0	32.0	28.0	36.0	
衛生士学生	0.0	1.9	28.3	39.6	30.2	

て、開業医 DR、大学補綴科 DR、開業医 DH は「賛成」とするものが34.6%以上と極めて高かった。また病院 DH および衛生士学生では「やや賛成」および「どちらでもない」の占める割合が高かった。

Q8における補助的説明の内容では、全ての対象がほぼ一致して「歯周治療」、「予防処置」および「PMTC」の項目が可能であると考えている。「Q9 歯科衛生士が、補綴物の違い（材料、利点、欠点、費用等）等に関する補助的説明を行うことはどうでしょうか？」では、開業医 DR および PDI DR は「賛

成」を示していた。病院 DH および衛生士学生では「どちらでもない」と答えた割合が約60%であり、他とは有意に異なっていた（表5）。

「Q10 歯科衛生士は装着された補綴物に対する患者指導（清掃指導や取り扱い）を積極的にするべきですか？」では、衛生士学生および PDI DR 以外で、その必要性を強く認めていた。

「Q11 治療終了した患者さんの補綴物等のメンテナンスやリコールは歯科衛生士の業務ですか？」では、ほぼすべての職場で「賛成」の意見が多いものの、

表5 コルモゴロフ・スミノフの検定

Q1	開業医DR	補綴科DR	開業医DH	病院DH	衛生士学生	Q11	開業医DR	補綴科DR	開業医DH	病院DH	衛生士学生
開業医DR	—	×	○	×	○	開業医DR	—	×	×	×	×
補綴科DR	—	—	—	×	×	補綴科DR	—	—	×	×	×
開業医DH	—	—	—	—	×	開業医DH	—	—	—	×	×
病院DH	—	—	—	—	△	病院DH	—	—	—	—	△
衛生士学生	—	—	—	—	—	衛生士学生	—	—	—	—	—
Q2	開業医DR	補綴科DR	開業医DH	病院DH	衛生士学生	Q12	開業医DR	補綴科DR	開業医DH	病院DH	衛生士学生
開業医DR	—	○	×	×	○	開業医DR	—	×	×	×	×
補綴科DR	—	—	—	×	○	補綴科DR	—	—	×	×	×
開業医DH	—	—	—	—	×	開業医DH	—	—	—	×	×
病院DH	—	—	—	—	△	病院DH	—	—	—	—	△
衛生士学生	—	—	—	—	—	衛生士学生	—	—	—	—	—
Q7	開業医DR	補綴科DR	開業医DH	病院DH	衛生士学生	Q13	開業医DR	補綴科DR	開業医DH	病院DH	衛生士学生
開業医DR	—	×	×	○	○	開業医DR	—	×	×	×	×
補綴科DR	—	—	—	×	×	補綴科DR	—	—	×	×	×
開業医DH	—	—	—	—	×	開業医DH	—	—	—	×	×
病院DH	—	—	—	—	△	病院DH	—	—	—	—	△
衛生士学生	—	—	—	—	—	衛生士学生	—	—	—	—	—
Q9	開業医DR	補綴科DR	開業医DH	病院DH	衛生士学生						
開業医DR	—	×	×	○	○						
補綴科DR	—	—	—	×	×						
開業医DH	—	—	—	—	×						
病院DH	—	—	—	—	△						
衛生士学生	—	—	—	—	—						
Q10	開業医DR	補綴科DR	開業医DH	病院DH	衛生士学生						
開業医DR	—	×	×	×	○						
補綴科DR	—	—	—	×	○						
開業医DH	—	—	—	—	○						
病院DH	—	—	—	—	△						
衛生士学生	—	—	—	—	—						

○ : $\alpha = 0.05$ △ : 統計処理除外

開業医 DR および大学補綴科 DR では「反対」も認められた。「Q12 歯科衛生士は現在よりもっと専門的技量や知識が必要と考えますか？」および「Q13 種々の認定衛生士制度が始まりましたがどう思いますか？」ではすべての職場で「賛成」の意見が多くみられ、分布に差異はなく、継続的な衛生士の技量の邁進が必要と感じている。

考 察

歯科医師と歯科衛生士がより良く協働することは、歯科医療を行う上で不可欠であり、そのことが歯科衛生士の存在理由そのものであると現在考えられている²⁻⁵⁾。

歯科衛生士の業務は、法律で定められた「歯科予防処置」、「歯科診療補助」および「歯科保健指導」の3つである¹⁾。特に「歯科予防処置」については、歯科医師以外では、歯科衛生士にのみ認められたものである。しかし「歯科予防処置」とは、予防的歯石除去とフッ化物の歯面塗布を指すものであり、歯科衛生士が法的に規定されている歯牙露出面の付着物や沈着物（縁上歯石）の除去だけでは不足しており、臨床上歯肉縁下歯石の除去も行っているのが現状である。歯科衛生士が行う歯石除去行為は後述するが、歯科診療補助業務であると考えられる。「歯科予防処置」は従来の歯科領域における予防という概念から、「健康日本21」等と連動し、超高齢社会での口腔機能の回復や低下の予防へと発展しつつある。この領域では、補綴学

的な歯科医師のアプローチに対し歯科衛生士の新たな業務の拡大も起こりつつある^{9,10)}。

歯科衛生士法第13条、歯科診療補助については近年種々の議論や見解が出され、その業務範囲が拡大しつつあると考えられる¹⁾。厚生省医務局長通知（昭和26年）によれば、「静脈注射は、医師又は歯科医師が自ら行うべき業務である」との見解が¹¹⁾「看護師等による静脈注射の実施について」（平成14年）では、「医師又は歯科医師の指示の下に保健師、助産師、看護師及び准看護師が行う静脈注射は、保健師助産師看護師法第5条に規定する診療の補助行為の範疇として取り扱うものとする」とされた¹¹⁾。これを発端に、歯科衛生士が係った事例として、某診療所において「歯科衛生士が日常的に採血や薬の投与をしていた」というものがあり、その際の厚生労働省保険課の見解として、(1) 歯科医師の指示の下で行っている、(2) 十分な知識と経験、技能がある、(3) 患者の不利益になっていない、ということから法に触れないとの見解を示し、歯科衛生士が行うことのできる行為は「ケースバイ・ケースで判断する」とした¹²⁾。このような事例にだけでなく、歯科衛生士の修養年限が3年になることや超高齢社会において、摂食・嚥下にはじまり口腔機能維持を図る中核的な役割など、歯科衛生士の業務の拡大が議論されている²⁾。

歯科医院における患者の安全性に関わる歯科衛生士の役割として、岐阜市の歯科医院では、歯科衛生士が安全管理者(1.9%)、医薬品安全管理責任者(13.3%)、

医療機器保守管理責任者(12.5%)と活躍の場面が多くある¹³⁾。また、歯科衛生士(常勤)数の推移を見ても歯科医院当たり、平成7年:1.30人であったものが経年的に増加し、平成17年:1.67人となり増加をしている。

今回のアンケート調査を考察すると、歯科衛生士の臨床上の価値を問う「Q1 歯科衛生士は歯科医療を円滑に行う上で必要ですか?」では開業医歯科医師は「極めて必要」と考えているのに対し、開業医勤務の歯科衛生士では「必要」と考える頻度が低く、両者で大きく異なっている。しかし病院歯科衛生士は「極めて必要」と考えている。これは、開業医では、歯科衛生士だけではなく歯科助手や受付業務を専門とする従業員がおり、歯科医療を行うには何人もの協力者、同僚が必要と感じており、開業医勤務の歯科衛生士は自らその必要性を低く評価したと考えられ、開業医歯科医師が極めて高くその価値を認めているのと相反した。一方、病院歯科衛生士は必要性を高く評価しているが、これは病院歯科衛生士の業務が診療室に限定されているため、自分たち以外に診療を行う上での診療補助者がいないことがその理由と推察される。

歯科衛生士の業務では、開業医歯科医師、開業医勤務歯科衛生士ともに「歯科予防処置」を最も頻度が高いと感じており、病院歯科衛生士では「歯科診療補助」や「歯科診療介助」が大部分であり、ほとんど「歯科予防処置」は行っていない。朝日大学歯学部附属病院は医育病院であり、歯学部の臨床実習生だけでなく、卒直後臨床研修医や修練医等、歯科臨床研修を行っている歯科医師が多数いる。そのため、歯科衛生士は「歯科診療補助」ではなく「歯科診療介助」の頻度が高くなると考えられる。同様な理由で、歯科衛生士の「歯科治療方針」や補助的な患者説明の必要性についても、病院歯科衛生士および歯科衛生士学生では積極的でないという結果になったと推察される。

補綴物の違い(材料、利点、費用等)等に関する補助的的患者説明では、大学補綴科歯科医師を除く歯科医師は歯科衛生士の業務として期待しており、開業医勤務歯科衛生士では比較的多く賛成をしていたが、病院歯科衛生士では低く業務という認識は少ないようであった。このことも、付属病院では多くの医員が常駐しており、病院歯科衛生士が患者説明を行う機会がほとんどないことが原因だと推察される。装着された補綴物に対する患者指導については、歯科衛生士学生のみがそのモチベーションが低く、おそらく歯科衛生士の教育の中で強調されてないと考えられ、他の職場との差が認められた。

結 論

歯科医師が望む歯科衛生士の役割と歯科衛生士が望む役割に関するアンケート調査を行った。対象は大学付属病院勤務の歯科医師、歯科衛生士、開業歯科医師と開業医勤務の歯科衛生士および歯科衛生士専門学校学生(2年制2学年)であった。歯科衛生士が行う業務に関しての各職場違いによるギャップを調査・検討の結果以下の結論を得た。

開業医勤務歯科衛生士を除く、大学勤務歯科医師、開業歯科医師、大学勤務衛生士および歯科衛生士専門学校学生は、「歯科衛生士は歯科医療を円滑に行う上で極めて必要である」と回答された。

歯科衛生士の業務については、実際には「歯科診療補助」が多かった。将来の、あるいは理想的に望まれる歯科衛生士の業務として大学勤務歯科医師は「歯科診療補助」であったが、その他の職種は全て歯科予防処置が最も多かった。

治療方針等についての補助的的患者説明は開業歯科医、開業医勤務歯科衛生士で高かったが、付属病院勤務歯科衛生士および歯科衛生士学校では低かった。

全ての職場で歯科衛生士が継続的な技量邁進の必要があると考えていた。

文 献

- 1) 歯科衛生士法(昭和二十三年七月三十日法律第二百四号)
- 2) 石井拓男, 金澤紀子, 児玉安司, 三上直一郎. 歯科衛生士の業務について. 日本歯科医師会雑誌. 2009; 62: 443-452.
- 3) 石井拓男. 歯科衛生士の業務を考える. ①歯科医師からみた歯科衛生士と働き方. デンタルハイジーン. 2003; 23: 714-730.
- 4) 金澤紀子. 歯科臨床における歯科衛生士業務の確立のために. 補綴誌. 2008; 52: 69.
- 5) 福岡幸子. かかりつけ歯科医院のかかりつけ歯科衛生士を目指して. 補綴誌. 2008; 52: 70.
- 6) 下山和弘. 歯科衛生士教育の現状とこれからの歯科衛生士の役割. 補綴誌. 2008; 52: 71.
- 7) 市川順子, 関口洋子, 豊田 恵, 山田京子, 出田亜紀子, 池田利恵, 小口春久. 本短期大学卒業生の就職活動に対する意識調査. 日歯医療管理誌. 2008; 43: 167-174.
- 8) 菅民朗; 統計分析の本. 2版. 東京: 株式会社エスミ; 2007: 205-233.
- 9) 「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)の推進について」(平成12年3月31日厚生省発健医第115号)
- 10) 嶋野浪江, 藤野富久江, 渡部恵子, 鈴木幸江, 金子ケ

- イ子. 高齢社会における口腔保健を支援する歯科衛生士の育成. 日歯医療管理誌. 2000 ; 34 : 243-251.
- 11) 厚生省医務局長通知(昭和26年9月15日付け医取第517号)
- 12) 「看護師等による静脈注射の実施について」(平成14年9月30日医政発第0930002号)
- 13) 岐阜県歯科医師会 情報・調査委員会編. 第7回歯科医業に関するアンケート調査結果. 2006 ; 31 : 11-17.
-